

# にゅとびあ 岸和田

岸和田市国際親善協会だより

ifa-きしわだ



## 外国人市民と地域社会住民 のための 防災訓練

桜が咲き始めた3月27日  
(日)中央公園で、初めての  
「外国人市民と地域社会住民のための防災訓練」が、(公財)大阪府国際交流財団との共催、岸和田市危機管理部、岸和田消防署、社会福祉協議会、地元支援団体の協力により実施されました。参加者総数82名(内外国人21名)による水消火器、バケツリレーによる消火訓練、応急処置、救助救出訓練、非常時持ち出し品の展示等々、2時間の充実した内容の防災訓練は、好評裏に終わることができました。視察に訪れた大阪府危機管理部の方々からも、このような外国人を交えた防災訓練を他地域でも広げていくためにも、大変参考になったとの絶賛のお言葉をいただきました。



地震(二次的に津波)等、自然災害はいつ起こるかわかりません。災害が起きた時、まず何をすべきか、身の安全の守り方、正しい避難の仕方、情報の入手方法、非常時の持ち出し品の準備を知っておく必要があります。このような知識を事前に把握し、防災の訓練を体験しておくだけでも、いざと



当日は信貴 芳則  
岸和田市長も、  
ご挨拶に来られました。

いよ時の被害は少しでも軽減されます。母国を離れ、言語・習慣・文化の違う地で、「何が起こったのか、どうすればいいのか理解できない」これ程不安なことはありません。この意味でも今回当協会が独自に作成した英文・和文併記の「防災ハンドブック」は画期的なものであると確信しています。今後も外国人市民向けの防災・災害時訓練事業を実施することで、地域に密着した災害時外国人支援を推進していきたいと思っております。

(防災訓練実行委員長 塩屋 裕)



バケツリレーは、みんなの息が合っていました。お見事!



無料配布中

岸和田市国際親善協会が作成した防災ハンドブック。無料で協会事務局にて配布しています。ご希望の方は協会事務局  
TEL. 072-457-9694  
までお問い合わせ下さい。



「にゅとびあ 岸和田」は世界の人びと、団体、都市との出会いを求め、ふれあいを大切にしたい親善・交流を通してお互いの連帯を深め、世界の平和と繁栄、人びとの幸福の増進のための貢献を目的とした、岸和田市国際親善協会の活動記録とメッセージの発行物です。



1/24  
(日)

## お好み焼き たこ焼きパーティ 於：春木市民センター

列島丸ごと冷蔵庫に閉じ込められたような日曜日、あちこちで雪やアイスバーンによる事故が報道されていた。申し込み者が集まってくれるか不安がよぎる。開始時間になっても3分の1の集まり。10分過ぎに見切り発車でスタート。買い物からレシピ作りまで担当された吉田さんの説明がはじまった。2時過ぎには、ぼちぼち集まったメンバーは20名くらいに。

4つのテーブルに日本人が2〜3名はりつき、お好み焼きからスタート。焼きあがったところから試食。お昼も大分過ぎているので出来立てのお好み焼きはとても美味しい。おいしい、おいしいと声が上がります。イスラムの方もいるので、豚肉は使えない。鶏肉のミンチを炒め、塩、胡椒したものを混ぜて焼いた。

次は、たこ焼き。種を流し込み葱、天かす、生姜、たこを入れて、雑煮箸と竹くしで返してゆく。最新のたこ焼き器はとも使いやすく初めての外国人もうまく焼けた。たこ焼きには、



竹輪や魚肉ソーセージなども入れ、口当たりの良いたこ焼きに参加者は舌鼓。お好み焼きは食べたことはあるが、たこ焼きは初めてといいながらインドネシアの青年は他のテーブルにも出張して焼き手で活躍。

最終29名の参加者には楽しくて美味しい「地球どんぶり」となった。(事務局)

2/7  
(日)

## ギョーザ鍋パーティ 於：春木市民センター

2月7日、春木市民センターで餃子鍋パーティが行われました。このパーティは外国の方にも企画準備から参加してもらおうというものです。

パーティはインドネシアのテニーさんの司会で始まりました。まず中国人の蔣莉(ショウリ)さんの実演を見た後、5つの班に分かれ餃子の皮の生地を作ります。生地をねかせている間に餃子の餡やお鍋の用意をしました。いよいよ餃子づくりです。ここで再び蔣莉さんのデモンストレーション。長く伸ばした生地を包丁でトントンとリズムカルに切り分け、クルクルと回しながら一つずつ麺棒で形を整えていきます。鮮やかな手さばきに皆さん感心して見入っていました。みんなでワイワイと餃子を包み、お楽しみの試食です。メニューは昆布だしに野菜とうどんを入れた餃子鍋のほか、マルタバクというインドネシアのホットケーキのようなデザートとアボカドジュースでした。お腹がいっぱいになった後はしりとり大会をしました。5秒以内に答えられないグループは、テニーさんのギター伴奏で歌うという



豪華な罰ゲーム付きでした。皆さんとっても楽しそうに歌うので「罰ゲームになってないよね。」と言って笑い合いました。

締めくくりにはテニーさんとアイさんのミニライブ。それから全員で歌を歌い、最後までとても賑やかなパーティでした。(職員会館水曜サロン指導者 永橋 逸子)

2/14  
(日)

## みんなあつまれ！ 高野山バスツアー

インドネシア人16名、ベトナム人14名、日本人19名の合計49名の参加による地球どんぶり高野山バスツアーが開催されました。当協会員でもある岸和田東ロータリークラブの坂東桂子理事も参加されました。出発前はダウンジャケットでは少し暑いぐらいでしたが、曲がりくねった山道を進んでいくにつれ天気が一変。激しい雨と気温の変化に少し戸惑いましたが、高野山に到着する頃には雨も上がり散策には問題ありませんでした。日本人の参加者が丁寧に説明をする中、外国人の参加者は初めて見る景色と独特の神聖な雰囲気、そしてほんの少し残った雪の残骸に興味津々でした。奥の院では持ち上げると願いが叶うというみるく石にチャレンジしたり、護摩木を書いたりしました。特に企業研修生の人たちは日本語検定試験の合格を祈願していました。昼食は精進料理。ベジタリアンやイスラム教徒の参加者も安心して食べることができました。食後にはきちんとお祈りもしました。文化や宗教は違ってもお互いを尊重して理解しあう素晴らしい光景でした。昼食後は壇上伽藍に



向かいました。集合写真を撮る時には一気に霧が立ち込めてきて幻想的でした。根本大堂を見学した後は三鉢の松を訪れ、葉が3本に分かれている松葉を見つけた人たちは「これできっと日本語能力検定試験に合格できると思う!」「お守りにする!」と喜んでいました。金剛峯寺などを見学した後、再びバスで岸和田へ無事に戻りました。

(広報部会 緒方 理世)

## 海をこえて

丁はサロン生として、丹下は指導者として日本語サロンで5年間一緒に勉強してきました。丁はこの度努力が実を結び、養成講座を終え指導者としてデビューしました。これを機に2人で何か記念になる細やかなイベントをと考えていたところ、丁の弟が結婚することになり、共に訪申し祝意を表することとなりました。

結婚式のみならず前夜祭にも親戚の一員として上座で迎えられました。中国では式の前日に新居のベッドルームに、親戚の女性達がベッドメイキングをするしきたりがあり、その様子も拝見しました。真っ赤なベッドカバーの上に「囍」「早子貴子」の文字をコインと木の実で描きます。太いネギと赤い果物が赤いレースの上に飾られていました。更に親戚の家にも招待され、近くの名所に家族全員で案内して貰いました。(丹下)

丹下さんには永きにわたり、日本語や日本文化を教えて頂きました。この度中国文化を実体験して貰いたいと考え、伝統的な結婚式に参列して頂き楽しい一時を過ごしました。(丁)

中国では遠来の友を暖かくもてなすことが重視されます。国と国は政治の問題などでうまくいかない事もありますが、まずは個人の交際交流を通して、お互いの文化を理解することの大切さをこの度二人は改めて感じました。

(丹下 千鶴・丁 立浄)



丹下さん 右前、  
丁さん 左から2番目



## ベトナム訪問 ～絆～

「先生、ベトナムに遊びに来てください。」昨年4月帰国前より日本語サロン生、ピエット君の言葉をサロン指導者の下野さんと決行しようとベトナム・ハノイへ。

一日目はナイトツアー、二日目はハロン湾ツアーに二人で参加、三日目はピエット君との再会。彼はベトナムの日本企業で働いています。ベトナムはバイクが洪水のようにあふれ、どこも横断するのはとても危険ですが、彼のあとに続き、やっとのことで横断できました。そして彼は私たちを現地の日本人から紹介してもらった、ハノイ名物ライギョ料理店へ連れて行ってくれました。その後ショッピング、しかし急なスコールで私たちはホテルへ戻り、彼はバスで1時間かけて家に帰りました。

夜はプライベートで知り合ったアインご夫妻と一緒にレストランへ。私はアインご夫妻の結婚式出席のために3年前にもベトナムを訪問したことがあります。アインさんは日本語能力試験レベルN2を合格して現在は組合の仕事をしています。

最後の日、関西国際センターのホームビジット受け入れで知り合ったリエンちゃんと合流。フェエから12時間、夜行列車で夜明け前に到着後、ホテルでリエンちゃん、下野さんと3人で朝食を食べました。ランチはピエット君、サロン生だったチャンさん、リエンちゃん達と屋台で、みんなで食べるのはとてもおいしい。その後みんなで文廟に行き《萬世師表》を見学しました。

日本語以外話せない私達が安心してこの数日間送れたのは、彼らの心優しいおもてなしのおかげです。ありがとう。大変楽しい思い出となりました。(辻ノ 賢美)



エルムンドとはスペイン語で「世界」を意味します。国際化の時代にあわせ、世界のカルチャーファッション、旅行、ライフスタイル等々がどんどん変わりつつあります。その中で皆さんが日常生活で感じたことを題材にとらわれず、自由に投稿していただくという趣旨のコラムです。

\*\*\*\*\*

## 《内モンゴル事情・過去と現在》

中国内モンゴル自治区は、1947年に成立した中国領土の一部です。北はモンゴル国、南は万里の長城に接しており、西にはゴビ砂漠が広がっています。面積は11,830,000km<sup>2</sup>、人口は26,000万人、首都はフフトです。

2001年9月に初めて中国内モンゴルを訪問しました。関空から上海経由で北京に着き、夜行列車待ちの休憩をホテルで過ごし、その後、寝台列車で10時間、さらに車で5時間程かかってアルホンチンキの町に到着。当地のいわゆる教育委員主催の、到着日の晩餐会では、歌、踊り、馬頭琴の演奏等で大歓迎して頂きました。

翌日からは学校訪問。幼稚園ではプレゼントの折り紙で、様々な動物や風船などを作って楽しみ、小学校、中学校とそれなりにプレゼントを携えて訪問し、日本の事情等について話しました。ちなみに、小中学生の殆んどは、遠隔地からなので、寮生活を送っていました。高校生の数は少なかったのですが、ラジオも聞いたことがなく、英語の歌など歌ったことがないので、優しい「Twinkle twinkle, little star」を黒板に書き、全員でとても喜んで、何度も何度も繰り返して歌った事は、今でも懐かしく嬉しい思い出です。

あれから15年、毎年の急激な経済発展により、信号も殆んどなかったフフト市内も年々高級マンションが立ち並び、地域によってはゴーストタウンの様になっている所もあります。貧富の差が益々大きくなっているのが現実です。また郊外では、砂漠化の速度がどんどん速くなっていて、環境悪化が心配されています。日本から多くのボランティアの人達が、植林活動に参加されて、環境保全だけでなく、経済支援にもなっていて、感謝されています。私は昔ほど頻りに内モンゴルを訪れることはしなくなりましたが、友人の一人が、年に何回も内モンゴルを訪れて、支援活動をしていますので、私も彼女に思いを託して、一助を担いたいと思っています。(栗尾 宣子)

1/16

(土)

Yhaphet Niles さん  
(セント・ビンセント・グレナディーン)

今回の English Open Cafe のスピーカーは、カリブ海に浮かぶ Saint Vincent and the Grenadines の外交官 Yhaphet さんでした。今は田尻町にある関西国際センターで日本語の勉強をされてます。Saint Vincent and the Grenadines という国は日本ではあまり馴染みのない国かもしれませんが、日本でも話題になった映画：パイレーツ オブ カリビアン のロケ地にもなったところですよ。そう聞くと、あ〜という方も多いのではないのでしょうか。私もその一人です。簡単にこの国のことをご紹介させていただきますと、オランダ人に 15 世紀に発見されて、18 世紀にイギリスの植民地になった後、フランス、イギリスの植民地支配を受けて、1979 年に独立を果たしました。人口約 10 万人、公用語は英語です。大変美しい自然に囲まれています。



この国の人は踊ることが大好きです。今日のプレゼンでは Yhaphet さんのダンスも少し披露頂きました。毎日陽気なリズムに合わせて踊っているためか、この国には認知症の方がほとんどおられないとのこと。この話を聞くと、日本という国は物質的には恵まれているかもしれませんが、本当の意味で豊かではないと感じます。

これまでカリブ海という日本から遠いということもあり、どんな国々があるかも知りませんでした。陽気な人々、美しい大自然に魅せられました。いつか是非、訪れてみたいと思います。  
(岩田 和之)

2/20

(土)

Thilini Bhagya Ihalage さん  
(スリランカ)

「インド洋の真珠」と呼ばれるスリランカから来日し、現在関西国際センターで研修中の外交官 ティリニ バギヤ イハラゲさんです。スリランカと言えば、かつての国名「セイロン」の名を持つ紅茶やスパイスが有名ですが、宝石やアーユルベエダ、豊富なフルーツも見逃せない! 南国情緒溢れる光景もあれば、眺望に恵まれた高原地帯、様々な鳥や動物の棲む国立公園、いにしへの栄華を思い起こさせる仏教遺跡。ティリニさんから次々と紹介されるスリランカの魅力に引き込まれました。

ただ、2500 年という古い歴史の中、シンハラ人の王朝にタミール人が加わり、ポルトガルやイギリスの侵攻・占領、民族対立から起こる内戦、又、独立はしたものの 80 年代からは反政府武装組織との戦闘・テロの繰り返し、2009



年によやく終結をむかえる事ができました。現在 7 割がインドから伝わる仏教徒であり、他のヒンズー教やイスラム教等との協調共存をしているという彼女の言葉に重みを感じました。国旗はそれを象徴し、元々はシンハラ王朝のシンボル金色のライオンが描かれ、後にヒンズー教の黄色・イスラム教の緑色の帯、仏教を表す 4 枚の菩提樹の葉が加えられて、現在の形になったそうです。

断片的にはスリランカの内戦情報は報道等で見聞きはしていたものの、現地の人々の声を直に聴く話には胸を打たれました。セイロンティーをいただきながら、遠いスリランカとの距離がぐっと縮まった気がして、是非行ってみたいとなりました。  
(櫻井 恵理子)

3/19

(土)

Yervard Markosyan さん  
(アルメニア)

3月のイングリッシュ・オープン・カフェは、アルメニア共和国の外交官イェルバードさんをお迎えしました。日本からは遠い国、その名前は知られていますが、私にとって未知の国でしたので、とても興味深いお話を聞くことができました。首都のエレバンは世界最古の都市のひとつだけに、その歴史、文化、芸術は重厚で、紀元前一世紀から四世紀頃のカテドラル教会、オペラハウス等々、標高 1900m の淡水湖であるセヴァン湖に沿って古代の教会や要塞、美しいリゾート地域もあるかと思うと、5000m 近い山々を囲む自然に架ける巨大なリフトが、スキーヤーを運び、自然の美しさに魅せられました。アルメニアはコーカサス山脈の南端にあり、西はトルコ、北はグルジャ、東はアゼルバイジャン、南はイランに位置しているので、イスラムの国々に囲まれています。25 年前ソビエトの解体以来、今日では 90% 以上がキリスト教国です。



音楽と言えば、ハチャトリヤンの「剣の舞」は、アルメニアの作曲家と知り、びっくりしました。又、日本の尺八にそっくりの楽器があり、尺八奏者、小栗氏が訪れた時に、何らかの交流があったのかも知れません。

アルメニアは「未来の星」。ツーリズムによって、日本の旅行者も自由に訪れる日を、イェルバードさん共々心から希うところです。日本に来られた時から、僅かの間日本語を、流暢に話され、京都が大好きで、能楽堂で観た「能」に感動したそうです。イングリッシュ・オープン・カフェにもっともっと参加して世界の文化や情勢を知ってほしいと思った次第です。沢山の映像とプレゼンテーションに感謝いたします。  
(篠原 栄子)

## 泉州国際マラソン通訳ボランティアに参加して

2/21  
(日)

前日の雨はすっかり上がり、絶好のマラソン日和となりました。今回岸和田市は、中国の鄭志標選手、韓国のキムドクキュ選手、キムジョンホ選手の3名を招待しています。19日に開かれた「歓迎交流会」席上、彼らと直接お話ししているので、今日の応援にもいっそう熱が入ります。

私たち通訳ボランティアの任務は、スタートからフィニッシュ会場、さらに途中の関門に分かれて待機し、必要に応じて、外国人参加者の通訳サポートをするというものです。私は英語ボランティアの土居さんと



共に、岸和田観光本社前の第三関門担当です。ここはスタートから16.6kmの地点で、12時半に閉鎖されます。11時24分にトップランナーが来たのを皮切りに、次々とランナーが目の前を駆け抜けていきます。応援メッセージを書いたうちわを手に、「加油」「マイティング」「fight」「がんばって」と声をかけると、笑顔で声援に答えてくれるランナーもいて、私も一緒に走っているかのような興奮に盛り上がります。伴走者と共に走る視覚障害者ランナーもいます。12時までには我が岸和田の招待選手3名全員が通過しました。12時半いよいよ関門閉鎖時間。まだたくさんさんのランナーが懸命に走っています。沿道では最後の応援が熱を帯びます。あ〜っ、無情にも関門が閉鎖されて、通過できなかったランナーはバスでフィニッシュ会場へと向かいます。お疲れ様でした。何とか関門を突破したみなさん、完走をお祈りしています。無事に走りすぎたので、ほっと一安心です。

今回通訳としての出番はありませんでしたが、ランナーの皆さんの熱い走りに感動し励まされました。また来年もぜひ参加したいと思います。  
(藤平 敬子)

## 国際ソロプチミスト岸和田 Friendship Link (フレンドシップ・リンク)

国際ソロプチミスト岸和田は、2013年に認証10周年を迎えました。日頃は地域の皆様とともに、国際親善と理解活動及び友情を通じて奉仕活動をさせていただいております。フレンドシップ・リンクとは、その名の通り、友情を結びつけることで、国際ソロプチミスト世界4連盟に登録しているクラブが国際親善・友好を目的としてフレンドシップ締結をして互いの国の文化や社会を理解し、交流を深め、共同の奉仕活動などを実践するプログラムです。10周年の年に、ご縁が



SIホーンズビー例会

あって、南西太平洋連盟に所属するオーストラリアの国際ソロプチミストホーンズビーとフレンドシップ・リンクを結び、以来、お互いの活動を報告し合い、それぞれが位置する社会についての情報を共有してまいりました。

昨年9月には、会員8名がSIホーンズビーを訪問する機会をいただきました。ホーンズビー市は、シドニーの北西25kmに位置し人口は約15万人、国立公園を含む自然の多い街です。ペリマン会長はじめSIホーンズビーの皆様には、早朝よりお出迎えいただき、ハーバーブリッジを渡る電車の車窓から見える街の説明を伺いながらホーンズビーへと向かいました。希少な種類が多い動植物に触れ、会員のご自宅の

庭を拝見し、休憩のためにグループに分かれて会員数名のお宅を訪問してオーストラリアの生活様式も学び、皆様の温かいお心遣いに感激しました。そして、例会に出席させていただきSIホーンズビーの活動の業績や、会員の皆様が活発に事業に参加していることを知りました。お食事をいただきながら和やかに岸和田とホーンズビーについてもお話しし、私たちからの御礼として日本の歌をご披露いたしました。



ペリマン会長と原会長

## 地球家族

### 言語と音楽

70億を超える地球家族は各々の言語を持つが、数多ある言語間の壁は厚く、メジャーな国連公用の6言語に限っても理解する日本人は少ない。意思疎通手段として言語を補完し、時にはそれ以上に力を発揮するのはジェスチャーと音楽ではないか。言語を介させなくても「阿吽の呼吸」や「目は口ほどに…」でも多少のコミュニケーションは可能でありジェスチャーともなれば国境を越えて力を発揮する。生まれれば赤ちゃんなら歌には反応し徐々に言葉を覚えていく。双方は人を繋ぎ、何かに駆り立て各種の感情を覚醒しつつ人生と共にある。

言語は思想等を理性に訴えて伝えるには極めて効果的だが、百万言を費やしても心に訴えて感情を伝えられないこともある。音楽は発信者の思いを、時には静かに切々と、時には圧倒的迫力で雄弁に伝える。シベリウスのフィンランディアは人を勇気づけ、フォーレのレクイエムは心に安らぎを与え、マーラーは第八交響曲で自らの世界観を語る。

認知症等により笑みや知性感情を失った人に対しては音楽の力は絶大であり、言語は時により無力ですらある。音楽は世界共通語で、国や人種を超える。

地球家族は各自が持つ言語、芸術、宗教等の文化を信奉している。我々は自ら信ずる価値以外のものを排除せず、各々の立場を理解尊重し交流を図ることなくして地球家族の幸福と平和はない。  
(奥野 藤樹)



日本人は日本語なんだけど…

南西太平洋連盟からいただいた証明書にある「和をもって活動を共にすることで人々に感動を与える機会ほど素晴らしい贈り物はない」という言葉をお互いの心に刻んで未永いフレンドシップ・リンクを誓いました。

(SI岸和田 会長 原 敏子)

# 岸和田に暮らして...

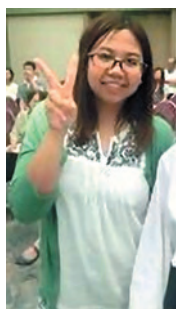
かつては外国の街、岸和田も、住めば都となり今は自分が暮らす我が街岸和田。そんな国際色豊かな ifa-kiwada の心強いサポーターでもある皆さんに、自分史や岸和田での暮らしについてお話いただいています。



ロサンゼルス市章

第17回はロサンゼルス出身の Ceres Andres (セレス・アンドレス) さんです。JETプログラムの外国語指導助手として岸和田市内の中学校で英語を教えて5年目です。

## セレス・アンドレスさん



セレスさん

皆さん、こんにちは。私は、大学生の時に留学で初めて日本に来てから、社会人になったら日本で暮らしたいと思うようになり、日本語の授業を履修して機会が訪れるのを心待ちにしていました。

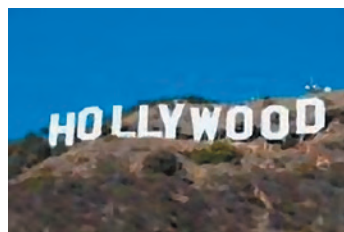
大学卒業後すぐにJETプログラムに応募し、2011年、合格通知をいただいてから東日本大震災が発生しました。ニュースで見た日本の様子に心を痛めていたところロサンゼルス日本国総領事館から連絡があり、その年のJETプログラムは中止されるのではないかと思います。ところが、聞かれたのは、「日本で大きな災害がありました、JETプログラムに参加しますか。」というお話でした。私は、日本はリカバーできる国だと信じていたので、迷いなく「行きます!」とお答えし、2011年7月に岸和田に到着しました。

シティ・ホール



岸和田に行くことが分かってから、街について調べようと「Kishiwada」とタイプして目に入ってきたのは、だんじり祭でした。初めてお祭りを観た時、次々に走って来るだんじりと曳き手の皆さんから目が離せないくらい感動しました。それから毎年だんじり祭の見物は欠かせません。お祭前になると岸和田の皆さんは早くから準備をして、街全体が活気づいてくるのが分かります。それは今、教室で一緒に生徒の皆さんからも感じられ、コミュニケーションはやはりお祭りの話題が一番です。

これまで岸和田市内8つの中学校でお世話になっています。昨年は岸和田市の青少年海外派遣事業のお手伝いをしました。英語を言葉だけではなく、私が体験してきた文



化、またアメリカの生活習慣からも学んでいただきたいと思います。生徒の皆さんは外国のことに興味があり、将来言葉や知識を活かしたいと思っているようです。私はまた、外国のことを学ぶだけではなく、日本の文化や岸和田のことを英語で伝えられるようになるといいねと励ましています。中学校では、保護者や先生方はじめ岸和田のコミュニティーの皆さんと知り合い、お友達ができました。家族と離れて暮らしていると感じないくらい、地元コミュニティーの一人として生活しています。

これからも岸和田で暮らしていけたら幸せに思っています。そして、いろいろな機会を、Changing and growing for the better. (より良くなるための変化や成長) だと思って歩いていきたいと思えます。また、私ももっと多くの人に出会って日本を理解していき、私自身が経験したように、いろんな文化を持っている人を理解し、“違い”を受け入れられる broader mind (より広い心をもった) の人が世界中で増えていくようにと思っています。よろしくお祈りします。

(取材：三森 すみ代)

## Information

## 案内

### ■2016年度総会

(と き) 4月30日(土) 13:30~16:00  
(ところ) 自泉会館  
\*2部に「摩耶 あきら」さんをお招きしコンサート  
「スプリング アフタヌーン」(2部はどなたでも参加できます)

### ■第8回「関西バリ舞踊祭」の開催

岸城神社・インドネシア領事館との共催で関西屈指のバリ舞踊家が集いガムランの生演奏とともにお楽しみ頂けます。バリ料理なども出店されます。  
雨天決行 \*詳しくはチラシで  
(と き) 6月4日(土) 17:00~20:00  
(ところ) 岸城神社境内(雨天決行) \*参加費無料

### ■5月3日(祝)開催の「市民フェスティバル」スタッフ募集

「ちぢみ」の販売と、「プラ板でアクセサリ作り」を出店します。お手伝いいただける方はお申し出ください。8:30集合です

### ■English Open Café の開催

9月以外の第3土曜日の13:30~マドカホール 3F 視聴覚室で開催します。  
申込なしでどなたでも参加できます。進行は全て英語です。

### ■2016年度の会費納入をおねがいします

詳しくは事務局だよりをごらんください

### ■地球村クッキング~ベルギー編~

チラシをごらんください



にゅとびあ岸和田 No.107 編集担当

緒方理世・奥野藤樹・栗尾宣子・塩屋 裕・三森すみ代・米川典子  
お問い合わせや感想などは事務局まで TEL&FAX (072) 457-9694